

ごあいさつ



鈴木 道子

連携機関
山形県立米沢栄養大学長

山形県立米沢栄養大学は、管理栄養士を養成することを目的に平成26年4月に開学いたしました。一学年の定員が40人という公立大学の中では最も小さな大学の一つです。常任教員は学長を含め22名で、きめ細やかな少人数教育が魅力でもあります。

開学2年目ということもあり、大学の実績作りはこれからですが、山形県民をはじめ人々の健康と豊かな暮らしの実現に寄与するという理念のもと、教職員一丸となって頑張っております。

ダイバーシティ研究環境実現に対しては、ようやく取組みが緒についたところです。栄養系の大学ということもあり、助手を含めた女性教員の割合は45%とかなり高い割合を占めており、また、学長、学部長は女性です。しかし教授や准教授という上位職の女性の割合は数字が下がってまいりますし、女性教員の介護、子育てなどライフイベントを取り巻く支援環境につきましてもまだまだ整っていません。

この度、本事業に参画させていただくことは非常にありがたく、様々な面で飛躍できるきっかけになるのではないかと期待しています。すでに何人かの女性研究者が山形大学の研究者と共同研究を始めていますし、日本を代表する企業である大日本印刷株式会社の皆様とのサービスデザイン・プロジェクトに参加させていただくのは新たな学びと刺激であり、研究者の育成につながるものと考えます。

本学の企画で実施しましたのは、「外部資金獲得セミナー」と「女性研究者研究成果発表会」などです。実績ある女性研究者を講師に「外部資金獲得セミナー」を開催し、3機関の研究者からお集まりいただきました。また、「研究成果発表会」は、女子学生や中学・高校生、一般の方を対象に行い、研究者を目指そうとするきっかけを与えることができると考えています。

女性研究者の研究環境を整えるとともに、それが男性研究者の意識改革にもつながれば、女性研究者の数の増加と全体の研究の質の向上に結び付き、ひいては地域の方々をはじめ、多くの人々の利益につながるものと考えます。そのためにも、本学の教職員一人一人が、事業の成功に向けて努力して参ります。